

3月29日 暖かい空気、春かなあと思ふ。山には桜が咲いていた。でも雨が降ってしまった。鶏の工サと卵取り。卵がウチで汚れてるけど、気にならず手でつかむ。それを重さ・数量と計り水洗い。そしてケースにつめる。

3月30日 お昼過ぎ、大阪の土方コミュニティから廃材を満載したトラックが到着。夜は又々酒盛り。下界ではみんなどうしてしてるだろうなあ。

3月31日 朝、かやがやするので、パッと目をさますと、外は真白。ナンタロ、霧だ。とてモきれい。山の景色って、どんな時でも、とってもきれいの。ケメ子さんか、霧がかかると、その日は天気がいいと言っていたが、その通りだった。午前は、新しい鶏舎の敷地の根おこし。小さいのを一個掘起した。

Dekaの(感傷的) キャンプ Diary



中野真澄

午後は、梶君の夕食の手伝い。弥栄特製華麗(カレ)。昨日はゆいいたのに、一気に多勢の人が帰りました。山の夜空は、とても大きなお月様。まるで手が届きそう。びっくりして目を見はつてしまふ。どうしてあん

なに大きいんだろう。カエルが鳴いています。川の流れが聞こえます。 **4月1日** 今日は、旧節句のおひな祭りの日。徳田さん宅で、みんなでお餅つきをするので、皆さんで手伝い兼食べに行く。久しぶりのお餅。うれしな。ペタン、ペタン。とってもいい音。チュー太さんに代われと強迫されて私もついでみた。今日は外を合のて4人の新しいキャンプが参加。

4月2日 朝6時から早朝ワーク。朝食は、鶏小屋の工事現場で、屋外パーティ(?)、ホットコーヒーと耳パン。そろそろ帰る人が多くな

り、私も家に帰りたくなってきたけど、チュー太さん、コック長、山崎さん、八木さん、みんな今日までいるよう強迫する。お風がわいた。一番風呂。気持ちよかった。 **4月5日** 今日はどうしたことが朝からカレーなのです。夜は又々、中村さんのジャンボコロケの登場です。午後一寒け、頭痛、怠惰、故に休日。休日をば。

4月6日 朝起きてビックリ。チュー太さんが、あのヒゲをバツリそり落していた。何事が起ったのか。昼休み、石を缶に当てる遊びをやる。山崎1。真2。テカ3。クリス4。私は一番目に当たった。うれしかったぞ。それから草野球を山崎さんやクリスとやる。楽しかったワイ。夜は橋本さんによるフォーワークコンサ

ト。インドへ行こう。カエルの戦争宣言。他。インドへ行けば、人間って何だろうと考え込むという。 **4月7日** 二二へ来て初めて、シイタケの木々場に専念した記念日。午前は、シイタケの水やり。口ウの欠

品に、口ウソクの水をたらす。これにはまったたく苦労した。午後、畑の方で焼畑をしていて、大事になりそうになる。みんなあわてて消火作業に専念。バケツリレー。私も、大事にならず鎮火。その時、クリスは、墓場で昼寝をしていたそう。中村さんは畑から見物していたそう。今日のようにシイタケに専念すると、すくなくシイタケのことが気になってくる。これも母性愛?

4月8日 全くアカの他人が何らかの共通意識を持った時それがオの時であれ、30オの時であれ、集ってきた所へ共。同。体。全。アカの他人が、その人の個別の、やさしさ。でもって他の人と接する所へ共同体。ある人はインドへ行けば人間って何だろうと考えてしま

うと言う。ある人は刑務所へ入った時、それを感ずるだろうと言う。へ共同。体。同。体。同。体。 **4月9日** 水をまきながら、ここへ来て25日間、私に何か変化が起ったかどうか考えてみた。毎日休んで

食べて、寝て...。ところが、夕方コック長から30人以上の人みんな覚えてる?。とか聞かれて、ハッとした。そう、私はキャンプの中で一番多くの人達と接したんだ。これだけ多くの人達と知り合えたなんて、やっぱり弥栄に来て良かったと思う。京都へ帰れば、また元の市民生活に戻るのだろうか。ということを考えて、ここでの生活、ここでの私。個人がすごく意識され、ここへ来た人達のことを考える。

4月10日 3月14日深夜入居。4月11日家出予定。持した人30数人。話した人30数人。完結した本なし。この命あれば、再び夏に会いましょう。手紙などが舞い込んだ際には、即お返事下されば嬉しいのです。 ※おしまい※

。春のキャンプは多くの仲間を残して暮らした。夏のキャンプへむけての活動はもう始まっている。「コミュニティへの越境を」。 「コミュニティへの越境を」。

ヨーロッパ共同体めぐり

その7 イタリアの巻

治富野角

昨夜、二時を出て、今朝、三時着。コミュニケーション関係の事務所に着き、コミュニケーションという女子がコミュニケーションという事で紹介してもらい、彼女の住んでいる雑誌社まで行ってみた。彼女自身もコミュニケーションに住んでいる。彼女の運動のタマリ場になっている大きなマンションの住所を教えてくれ、まずそこに行ってみた。

副次的コミュニケーション考

コミュニケーションといった感じからは、程遠いマンション街の中で、合理的な白々しい超近代的な設備が、大きな顔をしている。メンバーの一人が大金持で、十日前に、この場所を始めたところだという。部屋が七、八あり、人の出入りが多く、メンバーは不明。彼らの運動は、ドラスチック解禁、性の自由等、新しい文化をつくる事。いわゆる

アンタラ的な志向をもっている。彼らの出している新聞は、イラストがほとんどで、サイケデリックといった感じのもの。現在は、政府が新しい法律(ドラスチック類をやっている者を見つけたら、二年間、病院送りか禁固)を施したので、これにどう対処するか言々について運動している。彼らのコミュニケーションに対する考え方は、副次的なものらしい。まず運動がある、その為の活動の場に、コミュニケーションがあるといったもので、財産の共有とか、コミュニケーションの維持に対しては、それ程、興味をもっていない様。ここで一晩泊まり、次の日、DINNIの住んでいるコミュニケーションへ行ってみた。

廃村のヒッピー化

メンバーは、男三人と彼女の計四人。五年前から、大学友達と始めて、多い時には十一人にもなったらしい。マクドナルドと称して、三ツ

をパンに塗って食べたり、玄米、特殊な香りの紅茶、そして、仏像に似た絵を壁に貼ったり、香をたいたり、英のリースで経緯したのどろろり、彼らの動機は、哲学的なものらしいが、話してみても、余り深くないので、単なる東洋カブレではないのでは?と最近考えるようになってきた。又、センガクレンという言葉は知っているも、それに対する詳しい事は知らず、角材が革命的と思っ込んでいたフミもあつた。できるだけこんな事に関しては、誤解を解く様に、知っている単語で説明してみたら、難しいもの。DINNIは、かなり英語を話し、彼女からはイタリアの事を多く知れたし、日本の資料を見せたら、山岸会の研さん方式に大いに興味をもった様。もう一つのコミュニケーションも近くにあつて案内してもらったが、彼らは、ミラノを近く出て廃村を買ひ、その村全体をコミュニケーションにするという計画をもっていた。彼らは、ほとんど長髪、ヒゲのいわゆるヒッピーに近く、一言で言えば、

ヒッピー文化をコミュニケーションで具体化しようとしている様。中には、DINNIの様に、政治的な事に関心を持っている、アナーキストだといっている者もいたが、

廃村での試みと開放

その後、フローレンスで一週間、尾関さんから聞いていたアナーキストのパウロの世話になり、21、23日DINNIから聞いていたコミュニケーションに行ってみた。ここは、フローレンスから車で15時間の所でDOPPIというチヨコレートの名前の様な古い城がある小さな町のはずれの小さな山の頂上にある。ここは廃村になったのを買って2年前から始めたという。この村が観光指定地になっている様に、本当に古い石造りの村だ。山の上にある為景色はとて素晴らしい。しかし、イタリアは地中海性気候故、冬に雨が多く寒い。僕が居た三日間とも雨であった。村の中央には、赤地に黒い丸とあつた。ヒッピーとアナーキスト革命の意見か? 彼ら自身は、パシフィストだと言っていて、

フローレンスのアナーキストグループとは接解がない。ここに来る前に、パウロに聞いてみたが、そんなところは知らない。それは、カトリックの僧院の様なものところが、とカラカワれた程。三組のカップルと、子供二人がメンバーだが、二カップルは不在で、男女の若い長期滞在者が居た。彼らは陶器、織物、刺しゅう、フォトデサインと、いろいろ試みている。広い村内に数多く置いてあつた。又、羊が沢山、鶏、アヒルが少々とズタというように中々生産を試みている。夏には多くのワークキャンプをやり、人の出入りも多く、もう一つの特徴として、彼らは、二二で世界の孤児を集めて、フリースクールをつくる計画を持っている事。僕にも、原爆孤児について詳しく質問してきて、日本に帰ったら是非これらの子供達を捜してここに送ってほしいと、真剣な顔で頼まれた。

※彼は6名帰国しました。エドワード・マッセル